(61)

氏名(生年月日)	若井幸子（ワカイ サチコ）
本籍	
学位の種類	医学博士
学位授与の番号	乙第1139号
学位授与の日付	平成2年12月21日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当（博士の学位論文提出者）
学位論文題目	**Lupus 腎炎における血漿交換療法の適応基準の検討**
論文審査委員	（主査）教授　杉野　信博
	（副査）教授　肥田野　信，白坂　龍曠

論文内容の要旨

目的

現時点では，Lupus 腎炎（LN）に対する血漿交換療法（PE）の具体的な適応基準は未だ確立されておらず，この適応基準を明確にするための検討を行った．

対象および方法

① PE 実施後1年以上経過観察の可能であった LN 患者35例を対象として，腎機能，尿蛋白，免疫学的検査成績の程度からそれぞれ4，4，3群（n＝35）に分類し，PE の効果について retrospective に検討した．②腎機能より分類した4群においては全例組織病理学的検討も行った．③ PE は二重膜濾過法（33例），遠心分離法（2例）で，3，4回を1クールとして，1および2クール実施した．

結果および考察

①腎機能（creatinine clearance：以下 Ccr）に対する PE の効果；PE 3カ月後に Ccr が10ml/min 以上上昇した例は，経過中の急性増悪群（7例）では6例，急速進行性腎機能低下群（7例）及び急性腎不全（6例）では全例に認められた．慢性腎不全（CRF）（2例）及び腎機能不変群（9例）では効果が認められなかった．②尿蛋白に対する PE の効果；尿蛋白陰性群（7例），尿蛋白陽性群（6例），急性経過の nephrotic syndrome（NS）（11例）では全例に有効であり，慢性経過の NS（7例）は無効であった．腎機能の改善に比べ尿蛋白の改善は遅延しており，1/2～1年で効果が認められた．③免疫学的検査所見；再発群（12例），急性経過群（17例）では有効，慢性経過群（6例）では無効であった．④腎組織病理学的検討；び漫性増殖性 LN（DPLN）の12例全例において腎機能，尿蛋白に対して PE が有効であった．上記知見より検討し，以下の PE 適応基準を提案した．

1．絶対的適応：1）腎機能；免疫学的活動性を伴う急速進行性 LN で1～2カ月の経過で急速に腎機能低下をきたす場合．2）尿蛋白；過去に NS の診断や浮腫の既往がなく1年以内に発症した NS 例，3）腎組織；activity score 20点以上，組織型では DPLN に有効．

2．比較的適応：1）腎機能；①免疫学的活動性を伴い3～6カ月の経過で腎機能低下をきたす場合．②CRF 経過中に急性増悪する場合．2）尿蛋白；1年以内に出現した中等度の尿蛋白．3）その他；① LN 以外の合併症が重篤な場合．② steroid 治療抵抗例，またはその副作用が高度な場合．

結論

腎機能・尿蛋白・免疫学的活動性・腎組織病理などの検討により，LN に対する PE 適応基準を具体的に提案した．

論 文 審 査 の 要 旨

本研究はループス腎炎に対する血漿交換療法の適応基準とその効果について検討を加えたものである．急速に腎機能低下を示し，高度な尿蛋白を伴い，腎組織像がび漫性増殖性糸球体腎炎を呈するものが絶対的適応になることを指摘していて，学術的価値が高いものである．

主論文公表誌

Lupus 腎炎における血漿交換療法の適応基準の検討

日本腎臓学会誌　第 XXXII 巻　第 6 号
73-83頁（平成 2 年 6 月発表）

副論文公表誌

1）ステロイド抵抗性ループス腎炎の腎機能，尿蛋白，腎組織に対する血漿交換療法の効果
腎と透析　**25**：309-314，1988

2）抗カルジオライピン抗体陽性を呈したループス腎炎 3 症例
東女医大誌　**59**：355-360，1989

3）ループス腎炎における抗 cardiolipin 抗体陽性と腎組織内血栓形成との関係
医学のあゆみ　**147**：709-710，1988

4）血漿交換療法のループス腎炎患者における免疫反応ならびに腎病変への影響
人工臓器　17：434-437，1988

5）Criteria for indication of plasma exchange in lupus nephritis（ループス腎炎における血漿交換療法の適応基準）
Plasmapheresis　**10**：43-49，1990